

優秀賞

大学生部門

群馬パース大学3年

白田 なつき

## 逆境に立ち向かう

「お前さえいなければ上手くいくんだ。この癌め」高校三年生、二月。この言葉と共に私はアルコール依存症の実父に捨てられた。元から家庭は崩壊していて、母は弱い人だった。子どもや母の人格を否定し、反抗的なら暴力を振るう実父。私には幼い頃から、家庭で過ごす時間の全てが戦争のように感じられた。私は自然と意志の強固な流されない性格になった。

「お前の高校の学費なんか出さない。自分勝手なことを言うな。今すぐ首をつれ」  
実父は働くことが嫌いで、家庭は常に貧困を極めていた。私が高校に特待生として入学した後も言葉の暴力は挨拶のように与えられ、私自身が正面から戦った為に状況は悪化の一途を辿った。

私には夢があった。食べる物にも困るような生活はしたくない。暴言暴力に怯える日々から解放されたい。社会に貢献できる人間になりたい。勉強はその為の、生まれた環境から唯一人生を逆転する手段。私は何があっても、勉強を続けた。高校二年生からアルバイトを始め、卒業して同年の友人が皆進学していく中、私は一年間アルバイトを続け、進学費用を稼いだ。楽ではなかったが、苦痛でもなかった。知っていたのだ。現状は変えることができる。物理的に捨てられたのは高校三年生の時でも、現実的には私はもっと早くから捨てられた人間だったのだ。そしてその分、生まれが全てではないことを理解していた。

大学生になった私には、夢がある。一つは自分の得意分野を生かして臨床検査技師という医療人になり、人の役に立つこと。もう一つは、私のような生まれた環境が恵まれない子どもの、希望の前例になること。私は自分の人生の全てをかけて、全ての境遇が自分の力で変えられることを証明したい。そしてどんな形になるかはわからないが、自分と似たような境遇の子どもを支援する活動をしたいと考えている。